

日本周産期・新生児医学会 第39回周産期学シンポジウム演題募集要項

テーマ：周産期における社会的支援を考える

会 長：長 和俊（北海道大学病院周産母子センター）

会 期：2021年1月22日（金）、23日（土）

会 場：札幌コンベンションセンター

演題募集

今回、周産期学シンポジウム運営委員会では、本学会設立の基本理念に立ち返り、胎児・新生児及び、それに関わる母性・母体に関連する社会的支援に着目しました。本学会や学会員からの医療の提供と研究の推進のみならず、母子の保健・医療に関わる国・行政・市民、すなわち社会全体からの支援について見つめ直すことを主眼としました。

近年の晩婚化や少子化、そして核家族化によって、妊娠・出産・育児において様々な問題を抱えた方たちが、気軽にかつ身近に相談をしたり支援を受けたりすることが困難となっているケースが多数見受けられます。また、未受診妊婦、飛び込み分娩、児童虐待などの深刻な問題が認識されています。周産期における治療成績は向上しているものの、医療現場だけではなく社会全体で問題を認識しかつ支援すべき状況は少なくないと考えられます。さらに近年、産後1年までの妊産婦の死因は自殺が最も多く、産後うつがその原因の1つとして考えられると報告されました。以上より、子育てという観点からは、夫婦や家庭のみの問題とするのではなく、子育てのための障害や制約を解消していくことは社会全体の役割でもあります。また、NICUへ入院した児や外科的治療を受けた児の退院支援の充実も急務であります。したがって、胎児・新生児及び、それに関わる母や家族の健やかな生活を維持するためには、医療の提供体制のみならず、社会一般の理解、ボランティアの活用、行政の介入などのそれぞれが協働した幅広いサポート（＝社会的支援）と関係する職種間の密接な連携が重要となります。

そこで、第39回周産期学シンポジウムのテーマを「周産期における社会的支援を考える」として、妊娠成立前から、妊娠中、出産時、産褥期、新生児から学童期に至るまでの過程で、母子を中心とし、夫や家族も含めた周産期における社会的支援に関連した演題を広く募集します。なお、産科医療補償制度に関する演題は今回のテーマからは範囲外とします。発表の約1年半前から応募を受け付け、運営委員とともに研究内容を吟味し、発展させる本シンポジウムの特性上、既報の演題ではなく、発展性のある意欲的な研究課題の応募を希望します。また、基礎研究や症例報告の演題も受け付けますが、臨床応用への道筋や客観的な評価が明確である演題を望みます。

キーワード

特定妊婦、若年妊娠、高齢妊娠、未婚妊婦、未受診妊婦、産前・産後サポート、性犯罪・性暴力被害、貧困、ドメスティック・バイオレンス、産後ケア、産後ケア入院、虐待、虐待死、マルトリートメント、ネグレクト、治療拒否、早産・低出生体重児、多胎妊娠、先天性心疾患、染色体・奇形症候群、骨系統疾患、脳性麻痺、発達障害、退院支援、人工流産、うつ病・双極性障害・統合失調症などの精神疾患、成人先天性心疾患、薬物治療、悪性腫瘍合併妊娠、医療社会福祉士、臨床心理士、カウンセリング、メンタルケア、フォローアップ、チーム医療、多職種連携、医療連携、保健所、児童相談所、乳児院、里親制度、特別養子縁組

応募要項

1. **応募書類**：「応募用紙」「抄録用紙」「発表者の利益相反自己申告書*」の3点です。下記URLよりデータをダウンロードしてください。
 - 1) 応募用紙：http://www.jspnm.com/syukai/doc/oubo_39.xlsx
 - 2) 抄録用紙：http://www.jspnm.com/syukai/doc/syoroku_39.docx
 - 3) 発表者の利益相反自己申告書：https://www.jspnm.com/aboutgakkai/pdf/rsj1_2A.pdf
*利益相反指針及び指針細則は以下のURLを参照ください。
<https://www.jspnm.com/aboutgakkai/pdf/rss181206.pdf>
2. **応募演題の注意点**
 - 1) 同一施設からの応募数に制限はありませんが、同一応募者は複数の演題を応募できません。
 - 2) 応募者は原則として会員（応募～発表時まで）かつ単名に限ります。なお、共同研究者等の名前を示す場合は、演題発表の際に謝辞等として示してください。
 - 3) 前向き・後ろ向き研究に関わらず、応募には施設の研究倫理審査委員会・Institutional Review Board等への申請が済んでいることが必要で、最終選考（2020年6月予定）までに承認が必須です。
3. **応募方法**：「応募用紙」「抄録用紙」「発表者の利益相反自己申告書」を、E-mailの添付文書として学会事務局宛、件名は「第39回周産期学シンポジウム応募演題」として送信ください。
4. **応募用紙**
 - 1) 【「応募用紙.xlsx」への入力に関する注意】に沿って作成ください。
 - 2) 応募用紙のファイル名は「発表者名-応募用紙.xlsx」としてください。
5. **抄録本文**
 - 1) 抄録本文は、目的～考察：1,600字以内＋今後の研究計画（シンポジウムでの発表までに実現可能な内容）：200字以内（文字数厳守）、図表不可とし、MS Word形式で保存してください。
 - 2) 文字数のカウントは、見出しを含めた本文をMS Word「文字カウント」（校閲タブもしくはツールタブにあります）を用い、「文字数（スペースを含める）」に返された数を文字数とします。
 - 3) 目的、方法、結果、考察、今後の研究計画の順に記載ください。
 - 4) 個人情報や生命倫理等、特に倫理的配慮を必要とする研究である場合は、行った具体的配慮について記載ください。
 - 5) 抄録本文のファイル名は「発表者名.docx」としてください。
6. **発表者の利益相反自己申告書**
 - 1) 【利益相反に関する自己申告書の提出】に沿って作成ください。
 - 2) 利益相反自己申告書のファイル名は「発表者名-利益相反.docx」としてください。
7. **演題送信先**：info@jspnm.org（日本周産期・新生児医学会事務局）
8. **応募締切**：**2019年10月1日（火）13:00 厳守**
9. **問合せ先**：日本周産期・新生児医学会事務局
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-30 メジカルビュー社内
TEL：03-5228-2074 FAX：03-5228-2104 E-mail：info@jspnm.org

*演題受付後、10営業日以内に事務局より「受付メール」をお送りいたします。連絡がない場合は事務局に問合せください。

*応募演題は周産期学シンポジウム運営委員会による書類選考、一次選考、最終選考を行い、2020年6月までに第39回周産期学シンポジウム口演演題として決定する予定です。

*書類選考：演題応募者には、2019年11月15日（金）までに書類選考結果をお知らせいたします。

*一次選考：書類選考通過者は、2019年12月6日（金）の一次選考会（東京）に出席いただきます。一次選考会では、スライドを用いたプレゼンテーション（7分間：時間を厳守して下さい）と、運営委

員との質疑応答（8分間）を行います。一次選考会終了後、選考結果をお知らせいたします。応募者が出席できない場合は、演題が不採択となることがあります。

*最終選考：一次選考通過者は、2020年6月の最終選考会（東京）で再度スライドを用いたプレゼンテーション（10分間：時間を厳守して下さい）と、運営委員との質疑応答（8分間）を行います。最終選考会終了後、最終結果をお知らせいたします。

【「応募用紙.xlsx」への入力に関する注意】

1. 必要事項はすべて入力ください。
2. 非会員の方は速やかに入会手続きをお願いいたします。 学会ホームページより手続きできます。

問合せ先：日本周産期・新生児医学会事務局

<https://www.jspnm.com>

TEL：03-5228-2074 FAX：03-5228-2104 E-mail：info@jspnm.org

【利益相反に関する自己申告書の提出】

日本周産期・新生児医学会が定めた利益相反指針及び指針細則に則り、「発表者の利益相反自己申告書（様式2-1）」の提出が必要となります。

原則として利益相反の有無は演題の採択には影響しません。

演題が採択された場合、利益相反状態の有無にかかわらず、発表演題の最初のページ（スライド）に利益相反状態を明記してください。記載例を以下に示します。

◆利益相反状態にない場合の記載例

筆頭演者氏名：〇〇〇〇

研究責任者：〇〇〇〇

所 属：△△△△産婦人科

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態はありません。

◆利益相反状態にある場合の記載例

筆頭演者氏名：〇〇〇〇

研究責任者：〇〇〇〇

所 属：△△△△産婦人科

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態は以下のとおりです。

- ・報酬額/ 〇〇製薬株式会社
- ・講演料/ □□製薬株式会社
- ・原稿料/ ◇◇製薬株式会社
- ・研究費・助成金（寄付講座所属）/ 株式会社××

2019年3月

日本周産期・新生児医学会
周産期学シンポジウム運営委員会